

# 指数関数的なWannier状態に対する障害について

塩崎 謙

December 31, 2023

## Abstract

指数関数的なWannier状態が存在するための条件はChern数がゼロであるとされているが、再検討する。

強束縛近似モデルにおけるハミルトニアンを考える。単位胞中心を $\mathbf{R}$ とし、自由度の局在位置を $\mathbf{x}_\alpha$ と書き、内部自由度を $i$ と書く。ハミルトニアンを $H_{\mathbf{k}}$ とする。 $H_{\mathbf{k}}$ は周期性

$$V_{\mathbf{G}} H_{\mathbf{k}} V_{\mathbf{G}}^\dagger = H_{\mathbf{k}+\mathbf{G}}, \quad [V_{\mathbf{G}}]_{\alpha i, \beta j} = e^{i\mathbf{G} \cdot \mathbf{x}_\alpha} \delta_{\alpha\beta} \delta_{ij} \quad (1)$$

を満たす。 $\mathbf{G}$ は逆格子ベクトル。 $H_{\mathbf{k}}$ のエネルギー負の状態を並べた行列を

$$\Phi_{\mathbf{k}} = (u_{1,\mathbf{k}}, \dots, u_{n,\mathbf{k}}) \quad (2)$$

とする。問題設定は、

- 波数空間全体で連続であり、周期性 $V_{\mathbf{G}} \Phi_{\mathbf{k}} = \Phi_{\mathbf{k}+\mathbf{G}}$ を満たす $\Phi_{\mathbf{k}}$ はいつ存在するか？

$V_{\mathbf{G}}$ 依存性については消すことができる。 $\mathbf{k}$ 依存するユニタリ変換

$$[V_{\mathbf{k}}]_{\alpha i, \beta j} = e^{i\mathbf{k} \cdot \mathbf{x}_\alpha} \delta_{\alpha\beta} \delta_{ij} \quad (3)$$

を導入し、

$$\tilde{H}_{\mathbf{k}} = V_{\mathbf{k}}^\dagger H_{\mathbf{k}} V_{\mathbf{k}} \quad (4)$$

とすると、 $V_{\mathbf{k}+\mathbf{G}} = V_{\mathbf{k}} V_{\mathbf{G}}$ に注意して

$$\tilde{H}_{\mathbf{k}} = \tilde{H}_{\mathbf{k}+\mathbf{G}} \quad (5)$$

が得られる。

以下、 $H_{\mathbf{k}}$ は周期的 $H_{\mathbf{k}+\mathbf{G}} = H_{\mathbf{k}}$ とする。

## 1 $d = 2$

まずは1バンドの場合を考える。 $S^1$ 方向に障害はない。よって、占有状態 $u_{k_x, k_y}$ は $k_x \in S^1, k_y \in [0, 2\pi]$ 上で連続と仮定して良い。

$$e^{i\theta_{k_x}} = u_{k_x, 2\pi}^\dagger u_{k_x, 0} \in U(1) \quad (6)$$

として、マップ $S^1 \rightarrow U(1)$ が定まる。 $\theta_{k_x}$ の巻き付き数 (Chern数) は連続な $u_{\mathbf{k}}$ を与える障害となるため、 $\theta_{k_x}$ の巻き付きはゼロとする。このとき、ゲージ変換

$$e^{\chi_{\mathbf{k}}} : S^1 \times [0, 2\pi] \rightarrow U(1) \quad (7)$$

であり、

$$\tilde{u}_{\mathbf{k}} = u_{\mathbf{k}} e^{i\chi_{\mathbf{k}}} \quad (8)$$

が $T^2$ 全体で連続であるようなものが存在する。なぜなら、ゲージ変換で

$$\theta_{k_x} \mapsto \theta_{k_x} - \chi_{k_x, 2\pi} + \chi_{k_x, 0} \quad (9)$$

であるが,

$$e^{i\chi_{k_x, 2\pi}} = e^{i\theta_{k_x}}, \quad e^{i\chi_{k_x, 0}} = 1 \quad (10)$$

として,  $k_y \in [0, 2\pi]$ はホモトピー $e^{i\chi_{k_x, 2\pi}} \sim 1$ で繋げば良い.

次に一般の $n$ バンドの場合を考える。同様にして,

$$U_{k_x} = \Phi_{k_x, 2\pi}^\dagger \Phi_{k_x, 0} \in U(n) \quad (11)$$

が定まる。ゲージ変換

$$V_{\mathbf{k}} : S^1 \times [0, 2\pi] \rightarrow U(n) \quad (12)$$

により,

$$U_{k_x} \mapsto V_{k_x, 2\pi}^\dagger U_{k_x} V_{k_x, 0} \quad (13)$$

と変化する.

$$V_{k_x, 2\pi} = U_{k_x}, \quad V_{k_x, 0} = 1 \quad (14)$$

と置く。ホモトピー

$$U_{k_x} \sim 1 \quad (15)$$

がいつ存在するかを調べれば良い。  $\pi_1[U(n)] = \mathbb{Z}$ より, 巻き付き数 (Chern数) がゼロであればホモトピーが存在する.

## 2 $d = 3$

空間3次元,  $n$ バンド系を考える。全ての方向のChern数はゼロとする。  $\Phi_{\mathbf{k}}$ は $S^1 \times S^1 \times [0, 2\pi]$ で連続と仮定して良い,

$$U_{k_x, k_y} = \Phi_{k_x, k_y, 2\pi}^\dagger \Phi_{k_x, k_y, 0} \in U(n) \quad (16)$$

が定まる。前節の議論より, ホモトピー

$$U_{k_x, k_y} \sim 1 \quad (17)$$

が存在する条件を調べれば良い。事実として,

$$[T^2, U(n)] = \mathbb{Z} \times \mathbb{Z} \quad (18)$$

であり, それぞれ $k_x k_z, k_y k_z$ 面内のChern数で特徴づけられるから, Chern数がゼロであれば $U_{k_x, k_y}$ はヌルホモトピック.

コメントとして,  $U_{k_x, k_y}$ はWilson loopに等しい。よって, Chern数が存在しない場合は, 全ての固有値を1にするホモトピーが存在することは直感的に理解できる.